

私達は肉の愛しか知らなかった

男と女の愛も、親子の愛も、その他、私達人間が愛だと思つてきた愛は、たくさんあるでしょう。

しかし、私は、本当に愛といえるものは、ひとつだと思つています。

愛はひとつなのです。

愛がいくつもあるはずがありません。

では、どの愛が本当の愛なのでしょう。

男と女が描く愛でしょうか。

親と子の間には流れる愛でしようか。

愛の人が語っている愛がそうなのでしようか。

私は、そのどれもが偽物の愛だと思っています。

それは、そのどれもが肉の愛だからです。

肉の愛とは？

そして、肉の愛が偽物？

それは、いったいどういふことなのでしょう。

肉の愛の「肉」とは、私達人間を肉という形としてとらえることを言います。

人を形としてとらえるところから、愛を考える、愛を語る、愛を
求める、そういうことが偽物なのだといふのです。

しかし、人は人を形としてとらえているから、肉の愛が偽物だとい
うのは、解^げせないはずです。

「人を愛する心、愛^{いと}しいと思う思い、慈^{いと}しむ思い、なぜ、それらが
偽物なのか。人の優しき、温もりにどれだけ心が救われてきたこと
か」と言いたいところだと思えます。

その通りです。

人と人が争って、互いに攻撃し合うよりも、人と人が愛し合い、
仲良く、ともに助け合いながら穏やかに暮らしていくほうが、人と

して幸せなものも分かっています。

しかし、本当にそうできるのでしょうか。

人と人が愛し合い、仲良く、ともに助け合いながら穏やかに暮らしていくことができるのでしょうか。

答えは、ノーです。

それぞれに、みんな性格が違います。色々な癖を持っています。色々な考え、思いがあります。

それは、みんなそれぞれに色々な背景を抱えて生まれてくるからです。

そして、生まれてきた場所の風習だとか環境に影響されて、いいえ、それぞれに抱えてきた背景が、その場所の風習、慣習、環境を

呼び水として、表面に現れてきます。

その表面に現れてきたものが、その人を形作っていきます。

それが、性格とか癖だと思えます。

そして、その骨組みの上に、自らの成長とともに社会で得た常識、知識を貼り付け、巻き付けていくのです。

そして、貼り付けたり、巻き付けたりして、小さな枠組みの中に自分を押し入れていきます。

いわば、それは小さな世界です。小宇宙の中で、みんな、我一番をやっていきます。

そのような中で、人を愛するとはどういうことなのか、本当の愛とはどういうものなのかと、あれこれ探求してきただけなのだと思います。

います。

しかし、小宇宙ではなくて、自分の中の本当の広さを、つまり、本当の自分というものを知っていけば、今まで、探求してきたものは、何とちっぽけなものなのかということになってきます。

小宇宙の中しか知らないときは、それで、よかったのかもしれない。せん。

やがて、その中から、飛び出して、少し広い自分の世界を感じ始めたならば、自分が知ってきたものが色褪せてくるはずいろあです。

もちろん、人を形としてとらえれば、男と女の愛にも、その他の愛と呼ばれるものにも、それぞれにストーリーはあると思います。

しかし、それらは、あくまでも物語の域を超えないことが分かっ

てきます。

そして、それらは、小説や物語などの架空の世界の話ではなくて、人と人が織り成す現実の話といっても、それらもまた、やがては消えていく運命にあるものだと感じ始めるのです。

私は、私達人間というものは、小さな世界にあるものではないことを感じていきます。

あの人の心は広い、懐は深いという表現がありますが、それも、人を形としてとらえている限り、小さな世界の中で感じているに過ぎないのです。

小さな枠組みの中では、本当の愛は分からない、自分を愛し、人を愛する本当の意味は分からない、そう思っています。

人を形としてとらえるところから愛いとしい云々と思うのは、肉の愛に過ぎないということが、心で理解できれば、だからこそ、何かもつと違う目線で、人と人の関係を見ていくことができるのではないかとということです。

本当の意味で大らかに、自分を見つめ、相手を見つめ、互いにもつと深い絆を感じ合えるのではないかと思えます。

ところで、あなたは、ご自分をどのようにとらえていますか。

あなたが、今見ている自分が自分だと思っっていますか。

それとも、今見ている自分以外に、自分というものがあると思っ
ていますか。

また、あなたは、自分は永遠に生きるものだと思っておられますか。

その反対でしょうか。

あなたが、自分をどのようにとらえているのか、とらえようとしているのかは、非常に重要なポイントです。

今、見ている自分が自分だと信じて疑うことがない人は、愛を間違えていくでしょう。

小さな世界の中で、愛を求め、愛に裏切られていきます。

もともと、その中で求めた愛は、存在しないからです。

あると思っていた自分に、自分が裏切られると言ったほうが適切なのかもしれません。

あると思っていた、思ってきた自分が愚かだったと言ったほうが
適切なのかもしれません。